

会報 ビーチing

第37号

2010年 NPO法人白神ネイチャー協会植樹ボランティア

第11回NPO法人ネイチャー協会の植樹が、10月3日(日) 例年どおり泊川上流ナメトコ沢で行われました。あいにくの雨模様になりましたが、本降りにはならず小雨程度でしたので、作業もはかどり、泥んこになりながらも楽しく植樹をしていました。

今年は、県内外スタッフ合わせて158名の方々が集まっていただきました。団体で参加されたのは、イオン中仙チアーズの皆さん、リコー日本の皆さん、八峰町関東ふるさと会の皆さん、りすシステムの皆さん、海と川と空の塾の皆さん、ルーテル学院大の皆さん、東京農大の皆さんです。ブナ220本、コナラ・ミズナラ・ケヤキ・イタヤカエデ・トチ等110本、合計330本の広葉樹を植樹しました。



今年は、昨年植樹した場所で、苗が根腐れを起こし枯れてしまった所に重点的に植えてもらいました。そのため目印の杭を先に打つ事前作業を9月29日(水)に会員10名で実施しました。

今回の植樹は、りすシステムさんからの寄付金と、秋田県水と緑の森づくり税から森林ボランティア活動支援事業の助成金で行いました。

今年の開会式は、今までとちがって旧八森小学校のグラウンドにて開催されました。司会は副会長の横山亮子さんが務めました。最初に、りすシステムの松島様より寄付金の目録の贈呈があり、その後挨拶をいただきました。

りすシステムは貧乏であり、よそ様に寄付するような立場じゃないのですが、3年前にある人が亡くなられて1億円ちかいお金を残されました。葬式代は63万8千円で残りの大事なお金をNPO法人であるりすシステムを通して、東北地方で森を育てる、木を植える、そういう良い仕事をしている個人または団体に寄付してほしいと言われ、2年余り東北地方を探していたら、世界遺産の麓八峰町のネイチャー協会が目についた、とのことでした。ネイチャー協会では、ブナの種を拾い、苗を育てて、それを植えていく事をしている。ここで腰を据えて緑を育て増やしていく事が、故人Nさんの遺志に通じるものであり、そして我々も緑を増やすために頑張っていく、とお話を頂きました。

次に工藤会長からの挨拶では、今年で11回目を迎える事になり、10年ひと昔と言いますが、その考えで行きますと私たちの活動は次の区切りの初年度にあたります。この初年度にあたりまして二つの点で昨年までと変わっている点があります。一つ目は、植えた場所を調べてみると植え残しがあります。それと植えた苗が枯れて死んでしまっている所があるので、今回はそれらの箇所を中心として植えてもらいたく、ほころびを縫う感じで植樹をしてもらいたい。

もう一つは、東京農大の福永先生や弘前大学の赤田先生から、「同じブナの種を育てて苗を植えて森作りをしても上手くいかないよ。」と以前から指摘を受けており、それで今年は八峰町で育てた苗と、よその地区で育てた苗を混ぜて植えてもらう事にしました。この成果は100年経たないとわからないので、この確認作業は今日参加しているお子さんからしてもらいたい。と結びました。

来賓代表の加藤町長さんの挨拶では、21世紀は環境の世紀と言われて久しく、八峰町もささやかではありますが、CO₂の排出量を減らす取り組みと、CO₂を吸収する二つの取り組みをおこなっている話に触れられました。

CO₂の排出量を減らすほうでは、昨年新しい庁舎ができ、その庁舎内で冷暖房に地中熱を使っていること、この自然エネルギー活用することによってCO₂を大幅に減らす事が出来ます。一昨年、経済産業労働省のほうで国内のフリード制度ができ、その制度中で地中熱ヒートポンプを使うことで、削減される二酸化炭素は48トンと認定されました。

もう一つのCO₂を吸収するほうでは、八峰町は8割が森林であり、このほど町内の250haの町有林を間伐等の整備をしたところが、これまたオスイットプレゼントということで、国のほうから二酸化炭素の吸収量として2040トンあると認証されました。

この二つの認証されたものは、いずれこれから環境計画にもとづいて企業に売却することができます。二つ合わせますと、とらぬ狸の皮算用ではないのですが、上手くいけば500万円位年間入ってくるのではないのでしょうか？これは、不確定要素がいっぱいありますが、もし入ればまたそれをもとにして森林を整備しようと、相談しています。

植樹をする人に、純粹にこういう取引の話をしては大変失礼と思いますが、いずれ二酸化炭素を減らす、吸収するこの行動を起こすことは、我々に今求められている課題であり、皆さんが植樹するそのものは、この吸収量の増大につながっていく事はまちがいないと思うので、今回植樹に参加された皆さんこれからもネイチャー協会の植樹にご支援のほどをお願いします。事故のないよう、楽しく植樹をし、八峰町の自然も満喫して行って下さい、と挨拶を終えました。

その後恒例となりました小道具を使つての会員鈴木和人先生による植樹の説明がありました。いつもわかりやすく、ユーモアもあり、皆さんが植樹の仕方をすぐ覚えられたのではないのでしょうか？

開会式が終わると同時に雨が降ってきたので、まずは植栽地をめざしてバス6台に分乗して移動しました。



小雨の中、植樹した皆様にはいろいろと難儀をかけましたが、無事とどこうり無く植樹を終えました。おつかれさまでした。

その後、旧八森小学校の体育館戻り、漁協婦人部のひより会提供のつみれ汁をいただき、昼食を取り閉会式を行いました。

閉会式では、会長が漁協婦人部の、山の森が元気にならないと魚が取れないと、我がネイチャー協会に賛同して無料でつみれ汁を提供して頂いている事についてふれ、感謝の気持ちを述べました。

そして、2組の方々より今回植樹関しての感想をいただきました。



はじめに、ニツ井の福岡さんファミリーです。福岡さんはニツ井で造園業を営んでおり、樹木に関してにはベテラン人です。娘さんの^{そのみ}苑実さんと

^こ紅の^は葉ちゃんからも感想をもらいました。^{そのみ}苑実さん

は、3歳から植樹に参加して今年で7回目になりました、妹は2歳から始めて今年で4回目になりました。ちゃんと植えてきました。ちゃんと育ててほしいと言っていました。次にお父さんの感想です。

40歳から始めて今年で7回目になりました。植木屋をやっており、山の木や庭石を作っていると自然破壊をしているのではないかと自己嫌悪を持っており、自然を再生させなければいけないと思い、この白神ネイチャー協会の事業を知って参加させてもらった。罪滅ぼしのつもりで参加していたのが、いつの間にか美味しいものがあったり楽しい人達がいったりで、これからも何十年と罪滅ぼしをしていきたいなと思っています。と言ってくれました。

次に、八峰町関東ふるさと会の成田恭子さんより感想をもらいました。ふるさと会の幹事をやっている父の紹介で友人と東京からやってきました。初めての植樹でしたが、前日からいろいろと教えて頂き上手く植える事が出来ました。100年構想なので、100年先まで生きている事は難しいので、子供たちと頑張って100年を目指していきな一と言っていました。皆さん本当にお疲れさまでしたとともに、ありがとうございます。

編 集 後 記

植樹終わってからの留山ツアーは、あいにくの雨と、道路工事の為に途中棄権となりました。参加してくれました方々には、たいへんご迷惑をかけました。

なんだかんだと11回目となりました植樹ですが、100年まではあと89回あります、89年です、先は長い？次世代の人に託しましょう。

広報担当 越前谷